

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第三中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	・生徒の肯定的評価は95.9%(昨年度94.1%)、保護者の肯定的評価も95.6%(昨年度87.7%)で、向上が見られた。 ・校長を中心に、組織的な対応ができていた。 ・新たな連絡機能(Tetoru)により、教職員・保護者への連絡体制が整い、学校の考えが広く浸透している。	A	学校だより・学年だよりから、全職員で取り組んでいる姿が見受けられる。昨年度と比較して学校が大変落ち着いた様子であり、保護者からの信頼も徐々に改善しているようである。結果からも本校の組織的・学校運営が功を奏していることは明らかである。たよりを通して、生徒一人ひとりをきめ細かに見ていることがよくわかる内容であった。 学校からの情報が、新配信システムの導入によりリアルタイム発信され、学校との関係性が近くなっている。半面、紙媒体を生徒から家庭へ提出する力が養われない点が気がかりである。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	・生徒の肯定的評価は97.8%(昨年度97.2%)、保護者の肯定的評価も91.9%(昨年度84.4%)で、大きく向上している。 ・安全点検・避難訓練により、計画的、系統的に生徒の安全を確保している。 ・生徒指導・教育相談各部署で、課題をリアルタイムで共有し、組織的に対応している。さらに、二者面談・三者面談を実施し、生徒に寄り添った体制を整えている。	A	保護者からの学校への信頼感の向上が図られ、調査結果は「生徒が安心して学校生活が送れる」教育実践が展開されている証左と思われる。計画的・系統的・組織的に取り組む体制が構築されていることは素晴らしいと感じます。いじめなどに関しては、これからも努力し、なくしていただきたい。 一方、本校は過去に誘拐や事故があった学校だからこそ、もっと大げさに対策や改善点をアピールしてもよい。登下校の狭い歩道や暗い夜道の対応ももっと行政と話を進めていくべきだと感じています。不登校の数の削減も、いじめ未然防止とも合わせ、さらに推進すべきです。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A	・生徒の肯定的評価は97.0%(昨年度94.7%)、保護者の肯定的評価は78.9%(昨年度78.5)で微増。指導方法の工夫等研究開発を進め、生徒の能力を向上させる。 ・全国・県学調とも、全学年、全教科で平均を上回った。結果を分析し、学力向上プランを作成した。 ・授業のオンライン配信を行い、休んでいても授業に参加できる環境を整備した。	A	県の学力・学習状況調査の結果から、平均以上をマークしており、生徒に対する指導の個別最適化が図られ、生徒を伸ばす教育実践が展開された効果が見て取れる。今後も維持、向上させることを期待する。 授業のオンライン配信をはじめ、ICT活用による教育実践が充実している。保護者は、学力向上についてより高めてほしいと感じている。引き続き、様々な指導方法の工夫、研究をお願いしたい。 学習については、家庭における学習習慣の確立が基本であるが、家庭と学校が協力して向上を目指すことが重要である。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	・生徒の肯定的評価は94.7%(昨年度93.5%)、保護者の肯定的評価は78.9%(昨年度71.1%)であった。 ・校内研修を中心に、指導方法の工夫等研究開発を進め、教職員の指導力・資質をさらに高め、生徒の学力向上させる。 ・ICT活用をさらに進め、生徒にとって効果的・効率的な指導方法を追及していく。	A	生徒への肯定的調査結果が高い水準にあるのに対し、保護者の結果が8割であった。これからもさらに向上させるため、創意工夫ある授業をお願いします。 本校のICT教育の授業を参観した際、タブレットを情報収集や作業の効率化のためにとどめるだけでなく、生徒の思考を深めたり、学びを共有するためのツールとして活用していた。今後も学びの質を高めるための利用をしていただきたい。 指導方法の工夫や授業の実践を、生徒へはもちろんのこと、保護者にもさらに伝わるように広報力を向上していただきたい。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	A	・生徒の肯定的評価は97.1%(昨年度95.1%)、保護者の肯定的評価は95.1%(昨年度94.6%)で、向上した。 ・教職員は生徒との信頼関係のもと、日頃より生徒へは、他者との関わり合いや、接し方、先生との話し方など意識して指導し、規律ある態度を身につけている。 ・各委員会の活動により、生徒が自ら生活を見直す自主的な取り組みが積極的に実施され、生活の改善につながっている。	A	評価結果からは、生徒が意識的に取り組んでいることが感じられる。学校からの指導・部活動を通して、生徒一人ひとりが、「規律ある態度」を当たり前のこととして学校生活を送っているため、その雰囲気は新入生にも自然と伝わっていき、良い流れができています。 一方、「規律ある態度」の確立には、学校だけではなく、地域、家庭と連携しての教育・協力・連携が不可欠である。多様性への理解も必要ではありますが、不登校に関しては学校だけでは解決できません。協力しあう体制づくりがさらに必要であると感じています。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	・生徒の肯定的評価は96.3%(昨年度96.1%)、保護者の肯定的評価は92.9%(昨年度89.5%)で向上した。 ・毎週教育相談部会と生徒指導部会に加え、校内研修でソーシャルスキルトレーニングを学校全体で研究し、そのことが生徒へフィードバックされている。 ・TPOに応じた服装、登下校の仕方など、実社会に応じたマナーについて声掛けしている。	A	いづれの調査結果においても、高い水準であり、かつ、前年度を上回る結果が出ており、学校における生徒指導の充実が図られていることがわかる。小学校で問題行動を起こしていた生徒が、三中生となつてからは授業態度に完全が見られ、行事にも積極的に参加している姿を目の当たりにした。先生方の日頃の指導の賜物であると思う。 きめ細やかな指導が感じられる。自転車のマナーを守ることにしっかり指導していただきたい。 なお一層、生徒の良さを認め、引き出す積極的な生徒指導の充実が必要である。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	・生徒の肯定的評価は95.4%(昨年度89.8%)、保護者の肯定的評価は91.9%(昨年度91.1%)で向上している。 ・保健体育科の授業では、準備運動時の工夫や体つくりの時間を確保し、生徒が意欲的に取り組んでいた。 ・体育委員会主催の投力強化運動、昼休みのボールの貸し出し、体育館開放を実施し、生徒主体の活動を多く実施した。	A	授業や部活動において、計画的に取り組んでおり、前年度を上回る結果が出ている。昼休みのボールの貸し出しなど、生徒主体の活動を、教員集団が粘り強く指導を展開している成果である。 体育が苦手な生徒にとって、ボールの貸し出し、体育館解放の取り組みで友達とのふれあいができており、体面・精神面で良い効果がある。 調査結果は学校の取り組みの賜物であると感じております。一方、働き方改革を含め、部活動のあり方が変化していくなかで今後が心配である。個人期には地域移行と学校教育の共存は難しいと感じております。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	・生徒の肯定的評価は93.5%(昨年度90.7%)、保護者の肯定的評価は84.3%(昨年度83.2%)で向上した。 ・体育大会を開催し、体育委員会中心に運営することにより、生徒が自ら体力向上への意欲・態度を育成することができた。 ・保健体育科を中心に授業での運動の機会を増やしたり、各競技の掲示物を作成したりすることで、体力向上に向けた意欲を高めている。	A	生徒・保護者ともに評価の向上が見られた。 学力の向上は、退路V区との向上と一体であり、車の両輪である。 特に、生徒の自己評価結果が高い水準であることは、生徒の自主性が尊重され、その自主性を生かすための教員の努力が並々ならぬものであることを表している。 生徒の自らの意欲を育成することができて素晴らしい。先生方は、生徒のためによく努力していると思う。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	・生徒の肯定的評価は92.6%(昨年度93.1%)と微減、保護者の肯定的評価は90.5%(昨年度87.4%)であった。 ・市費職員や卒業生による、業務・授業補助や鳴子指導など、地域の教育力を最大限に活用した学校運営ができた。 ・保護者との連携については、学校運営協議会と連携し、さらに高めていく。	A	成果が数字として現れていない点からすれば、生徒自身が地域連携の意義や価値を集団として実感できるような取り組みにやや課題があったのかもしれない。生徒会を中心として、地域に学び、地域で育つということを課題とし、連携、協働をさらに推進することが大切である。 学校と家庭と地域が連携して開かれた学校を目指すには、PTAとの連携も不可欠だと思いますが、PTA自体が縮小傾向にあり、もう少し、学校がPTAや学校運営協議会が必要であると表明していただきたいと感じております。ふれあいまつりでは、三中生の参加が少ない感じます。工夫を。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	A	・生徒の肯定的評価は94.1%(昨年度94.6%)、保護者の肯定的評価は91.5%(昨年度91.6%)でどちらも微減。 ・コロナ以降、PTA活動の在り方を学校・保護者相互的に理解し、運営していく方法を模索中である。 ・環境美化活動等、PTA本部が中心となり多くの保護者と連携し、実施した。今後も学校・家庭・地域が連携して安全指導や生徒の健全育成を推進していく。	A	PTAに関しては、これまでのように義務感のみでの取り組みには自ら限界がある。学校に関わる人たちの自主性や主体性を生かしつつ、それらの営為を組織していくような取り組みが、今後は学校に求められる。 前年踏襲的な、形式的な取り組みから脱して、創造的な取り組みとなるためには、関係者の自主性や主体性が肝要である。課題がどこにあるのかの検証を今後深めていただき、年度末の総括や次年度への方針へと反映させていただきたい。